筒香逆襲へ

「良い数字ではない」メジャー1年目

メジャーリーグ2020

単独インタビュー

メジャー1年目のシーズンを終えたレイズの筒香嘉智外野手（29）が、電話取材で本紙の単独インタビューに応じた。日本野手として14年ロイヤルズの青木宣親（現ヤクルト）以来のワールドシリーズ（WS）に出場。レギュラーシーズンではチーム2位タイの8本塁打、同2位の24打点を記録したが、打率は・197と苦しんだ。今季を振り返るとともに、来季に懸ける思いを聞いた。（聞き手・柳原 直之）

ゲッティ＝共同

◇筒香の今季成績◇

RS	試51	率.197（157―31）	本8	点24	盗0
PS	試8	率.125（16―2）	本0	点0	盗0

※RS＝レギュラーシーズン、PS＝ポストシーズン

打率・197 本8

――コロナ禍で60試合制だった米1年目。51試合に出場し打率・197、8本塁打、24打点の自己評価は。

「プロの選手ですので、数字に責任を取るのは当たり前。もちろん良い数字ではないのも分かる。僕がそこにどうこう評価することはないです」

――本塁打数へのこだわりは。

「自分の中で良い本塁打というのは今年一本もなかったので、60試合で8本打ったという感覚は正直あまりないです」

「一番大事」打撃信念貫く

逆方向は変わらない

――7月24日の開幕・ブルージェイズ戦で左腕・柳賢振（リュヒョンジン）から放った1号は逆方向への良い感触の本塁打に見えた。

「今年は気持ち良いホームランはなかった。自分の体の中のこととか、扱い方の中で気持ち良いなと思った本塁打がなかったということですね」

――〝逆方向への打撃が鍵〟と渡米前に話していた考えは変わっていないか。

「逆方向に打つために使う技術が一番大事になるというのは変わらないと思います」

――日本野手として14年青木以来のWS出場を果たした。

「日本にいたらあのような経験はもちろんできません。素晴らしい経験をもちろんさせてもらうことができました」

――WSでは2試合に代打出場し2打数無安打だった。

「何か納得したものが個人的にあるかといえば、もちろんないですが、あそこに行けたという意味では非常に良い経験をさせてもらったと思っています」

MLB挑戦「敬意」

――来季は2年契約の最終年。何か変えようとしている点は。

「何か一つが変わって、何か一つを求めてやって、活躍できるような場所ではないと思います。もちろんスピード、パワー、技術というのは、また日本とは違いますよね」

――改めて抱負を。

「今年はこういう成績でしたので、もちろん自分で感じている部分は、たくさんあります。それをこのオフシーズンにしっかりできれば。また、コロナ禍の中で何が起こるか分からない世の中ですので、日本にいる皆さんもいろいろなコロナ禍で大変な苦労している方がたくさんいると思います。常に前を向いて、というのはなかなか難しい世の中ですけど、前向きになれるような活躍や発信をできるように頑張りたい」

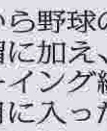
――このオフは巨人・菅野、ロッテ・沢村、日本ハム・有原、西川がメジャー移籍を目指している。

「日本の野球の違う良さもありますが、（メジャーは）レベル的にいうと世界一の場所ですので、そこに挑戦することは非常に勇気がいる。挑戦する決断をした方たちには凄くリスペクトも敬意も、もちろんあります。日本でやっている選手に敬意がないかといったらそうではないですが、大きな決断をしたことに凄い意味があると思います」

――同じ日本選手として刺激を受けるか。

「良いニュース、良い報道を日本の方に届けられるように、日本人みんなで頑張れたらなと思います」

◇今オフメジャー移籍を目指す日本選手◇

	巨人	㉛投手	菅野智之	ポスティング
	日本ハム	㉘投手	有原航平	ポスティング
	日本ハム	㉘外野手	西川遥輝	ポスティング
	ロッテ	㉜投手	沢村拓一	海外FA

自主トレ意欲的「これから毎日」

○…WS後に帰国した筒香は現在、関東地方で自主トレに励んでいる。「午前中にトレーニング系（のメニュー）をして、午後から野球の練習ですね」。打撃練習に加え、内外野の守備練習、スローイング練習にも励んでおり「12月に入ったので、練習は毎日これからやっていく予定です」と意欲的だった。

☆紙面編集　古澤　航

体づくりでは〝イチイズム〟貫く

取材後記　筒香は数年前からウエートトレーニングをしていない。ブリッジ、側転などの運動を通じ、細かな感覚や体のバランスを重視。豪快な本塁打が代名詞だが「会心（の当たり）かどうかは、あまり興味がないですね」と言い切るほどだ。

イチローさん（マリナーズ会長付特別補佐兼インストラクター）がかつてテレビ番組で「持って生まれたバランスを崩してはダメ」と過剰な筋力強化を否定したことがあったが、筒香も同様の考え方といえる。

米1年目。ウエートトレーニング全盛のメジャーで筒香の考えは異質だったはずだが、信念を曲げなかった。満足できない成績だったことは認めながらも、日米のレベル差には〝衝撃〟とかはないですね。もちろん、それは想定しているので」と頼もしい。声のトーンも明るかった。きっと来季へのヒントをつかんでいるはずだ。（MLB担当・柳原 直之）

◇筒香 嘉智（つつごう・よしとも）1991年（平3）11月26日生まれ、和歌山県出身の29歳。中学では堺ビッグボーイズで全国大会8強。横浜高では2年の春夏に甲子園に出場し、高校通算69本塁打。09年ドラフト1位で横浜（現DeNA）入団。日本球界では通算968試合で打率・285、205本塁打、613打点をマークし、19年12月にポスティングシステムでレイズに移籍した。1㍍85、97㌔。右投げ左打ち。

筒香のMLB1年目

☆7・24**メジャー初本塁打**　開幕・ブルージェイズ戦に「3番・三塁」で出場し、3打席目の5回に柳賢振（リュヒョンジン）から左中間にメジャー初本塁打。

AP

☆8・7**田中と初対戦**　ヤンキース戦で一邪飛、中飛の2打数無安打。

AP

☆8・30**4番で初本塁打**　マーリンズ戦の初回、右中間5号2ラン。4番7戦目で初の一発。

☆9・23**地区V**　10年ぶり3度目の地区優勝。メッツ戦では1番でフル出場し無安打ながら1四球1得点。

共同

☆10・14**ポストシーズン初安打**　アストロズとのリーグ優勝決定シリーズ第4戦の7回、ポストシーズン初安打となる投手強襲内野安打。

☆10・17**リーグ制覇**　08年以来のリーグ優勝を果たし、ワールドシリーズ進出が決定。

AP

☆10・27**終戦**　ドジャースとのワールドシリーズ（WS）第6戦に敗れて敗退。WSは2試合全て代打で2打数無安打。　（日付は米国時間）

共同

ギータ塾

来年1月広島で合同自主トレ参加

安田

元SHで現同僚の福田秀〝ツテ〟に直訴

来年1月に合同自主トレを行う㊤柳田と㊦安田

㊦自主トレを共にするなど柳田（右）は福田秀と親しい間柄　㊧㊦安田も練習に参加し憧れの男の背中を追う

ロッテの安田がソフトバンク・柳田の合同自主トレに参加することを明かした。来年1月中旬に10日程度、柳田の地元・広島でともに汗を流す。21歳の若き主砲は「日本を代表する強打者から学び、打撃のレベルアップができるようにいろいろなことを吸収したい」と心待ちにした。

3年目の今季は7月21日に初めて4番に座り、86試合連続で起用された。だが、首位争いをしていた10月1日の日本ハム戦では1点を追う9回2死満塁で見逃し三振を喫し、井口監督から「振らないと」と苦言を呈された。打率・221、6本塁打、54打点。4番としては物足りない数字に、指揮官は「20本くらい最低打ってもらわないと。率も3割くらい打てる打者だと思う」と高いハードルを課した。さらなる飛躍に向け、安田もソフトバンクから移籍してきた同僚の福田秀が柳田と親しいことから憧れの大砲との距離が縮まり、参加を直訴した。

技術面も精神面も「学ぶことできれば」

「技術面だけではなく精神面、どのような練習を行うかなども学ぶことができれば」。フルスイングが代名詞の同じ左のスラッガーから全てを吸収する。（君島　圭介）

データ　対左投手打率での差が顕著

○…今季の柳田と安田の成績を比べると、その差は歴然。柳田の打率はリーグ2位の.342。一方、安田は25位の.221と1割以上の開きがあった。状況別では柳田が左投手に対して.381と攻略したのに対し、安田は.177とこちらは2割以上の差。カウント別では柳田が0ストライク時で.395、8本塁打、1ストライク時は.505、13本塁打と猛打。安田は0ストライク時.282、1ストライク時.258で本塁打はいずれも1本止まり。早いカウントでの思い切りの悪さが目立った。

◇柳田と安田の今季打撃成績比較◇

柳田	項目	安田
.342㉙	打率　本	.221⑥
.380⑰	ホーム	.227④
.306⑫	ビジター	.215②
.381⑪	対左投手	.177①
.328⑱	対右投手	.243⑤
.319⑭	走者なし	.160②
.375⑮	走者有り	.285④
.369⑦	（得点圏）	.256①
1.000	（満塁）	.235
.395⑧	0ストライク時	.282①
.505⑬	1ストライク時	.258①
.244⑧	2ストライク時	.189④
.343⑰	1～5回	.224②
.341⑫	6回～	.217④

※●数字は本塁打数

今季台頭の清水に続け
救援陣競争もっと熱く

ヤクルト　高津監督が「マクガフ、梅野、長谷川といったところがどんどんつながってこないといけない」と勝利の方程式争いの激化を歓迎した。今季は守護神の石山につなぐセットアッパーとして2年目の清水が台頭。52試合に登板し、30ホールドで最優秀中継ぎ投手のタイトルに輝いた。「本当に逃げ切れる投手を7、8、9回に置かないと、と強く思っている」と高津監督。最下位脱出へ、救援陣の整備を急ぐ。

師匠今宮との二遊間で
周東お次はＧＧ賞盗む

ソフトバンク　周東がゴールデングラブ賞の獲得を来季目標に掲げた。トレーニングでペイペイドームを訪れ「一番は（今宮）健太さんのケガが治ってもらって二遊間を組みたい。そこでゴールデングラブ賞。難しいですが、できれば最高」と目を輝かせた。今季は9月中旬から二塁に定着し50盗塁で初タイトルとなる盗塁王も獲得。昨オフに続き今宮との「師弟自主トレ」では捕球と送球の確実性向上を目指す。2年連続盗塁王＆ゴールデングラブ賞も獲得し、チームに貢献する。

◆合格者　東都大学野球1部リーグの中大野球部はスポーツ推薦合格者を発表した。今秋ドラフト候補にも挙がった浦和学院・美又王寿投手、習志野・桜井亨佑内野手、昨夏甲子園準優勝の星稜・知田爽汰内野手（いずれも3年）ら16人が合格した。

◇中大野球部推薦合格者一覧◇

位置	選手名	校名
投手	深浦　幹也	福岡大大濠
	今村　拓哉	関東第一
	☆申原　理来	大阪桐蔭
	中村　伊吹	宇治山田商
	☆種橋　諒	日本文理
	☆美又　王寿	浦和学院
捕手	☆山田　将義	二松学舎大付
	栗林　大知	八王子学園八王子
内野手	☆知田　爽汰	星稜
	☆桜井　亨佑	習志野
	清水　翔平	高鍋
	山本　聖	鹿屋中央
外野手	☆川波　瑛平	白樺学園
	山下　拓真	磐田東
	☆戸沢　昂平	健大高崎
	萩原　康成	竜ケ崎一

※☆は甲子園、甲子園交流試合出場。健大高崎は高崎健康福祉大高崎

新庄氏獲得オファー「来てない」

「6日間」期限設定　今日にも進退決断

現役復帰を目指して7日の12球団合同トライアウトに参加した元日本ハムの新庄剛志氏（48）が、オファーが届いていないことを明かした。当初から6日間の期限を設定しており、きょう13日にも自身の進退を決断する。

この日、新庄氏に約5カ月間密着したTBS系のドキュメンタリー番組「バース・デイ」がオンエア。その中で新庄氏は「（オファーは）ゼロです。来てないです」と明かし、「12月12日放送現在」とのテロップが入った。トライアウトで第4打席に左前適時打を放った新庄氏は、オファーがなければ野球をやめる意向を示しており「6日間待って（オファーが）来なかったら、終わりでいいんです」と改めて話した。

創価大名将
65歳岸監督
今年限りで勇退へ

東京新大学野球リーグ・創価大の岸雅司監督（65、写真）が今年限りで勇退することが12日、分かった。岸監督は久賀（山口）から社会人の本田技研（現Ｈｏｎｄａ）を経て、84年に創価大監督に就任。今秋までに通算679勝を挙げ、46度のリーグ優勝を果たして全国大会常連の強豪校に押し上げた。在任中はヤクルト・小川、ソフトバンク・石川、田中ら多くの教え子をプロに輩出。定年のため後進に道を譲ることを決め、準優勝した今秋の関東地区大学選手権が最後の采配となった。後任は堀内尊法コーチ（52）が昇格する。

今オフの期間終了
ポスティング申請 日本球界から3人

ポスティングシステムの今オフの申請期間が12日に終了した。申請したのは日本ハム・有原、西川、巨人・菅野の3人。交渉期限は有原が日本時間27日午前7時、西川が来年1月3日午前7時、菅野が同8日午前7時となっている。例年の申請期間は11月1日～12月5日だが、今年はコロナ禍で試合日程が変則となったため、1週間遅くなった。

雄星小中高生に「夢かなう」激励

マリナーズ　球界きっての読書家で知られる菊池が、今年から協力する「第53回岩手読書感想文コンクール」（岩手日報社など主催）の表彰式が盛岡市内で行われた。オンラインで参加した左腕は、受賞者の小中高生らに米国から「自分の好きなものを突き詰めていけば夢はかなう」とメッセージを送った。新設の「菊池雄星特別賞」は1次審査を通過した全81作品を菊池自らが読んで選出。受賞した5人にはサイン入りユニホームが贈られた。米アリゾナ州で自主トレを積む菊池は「もっと本を読んで勉強して、人としても、野球選手としても結果を残せるように」と語った。

表彰式後にオンライン取材に応じる菊池

メジャー短信　11日

◆就任　フィリーズはデーブ・ドンブロウスキー氏（64）が球団初の編成本部長に就任したと発表。タイガースなどでGMを歴任し、レッドソックスで編成本部長だった18年ワールドシリーズ制覇に貢献。19年9月にレ軍から同職を解任されていた。

◆選出　大リーグは最も活躍したDHに贈る「エドガー・マルティネス賞」に今季、ブレーブスでプレーしたマルセル・オズナ外野手（30）を選出したと発表。今季は史上初めて両リーグDH制が採用され、ナ・リーグ選手では初の受賞。オズナは全60試合に出場し、打率・338、18本塁打、56打点。オフにFAとなった。

◆契約合意　ロッキーズからFAのデービッド・ダール外野手（26）がレンジャーズと単年約300万㌦（約3億1200万円）で合意。

外電はAP、ロイター、共同

コロナショックでオフ議論も停滞？

球拾い
Ball Boy
5

毎週日曜掲載

12月の第2週は例年、ウインターミーティングが行われる。ところが全球団のフロント幹部、代理人などが集うこの集会が中止。顔を突き合わせ互いのチームづくりを探る機会が消えた。

さらに「大リーグ機構（MLB）は、来季の基本的規則にも沈黙」と野球メディアは報じ、「球団も選手も宙づり状態で動けない」と球団幹部たち。2日にMLBから全球団に届いたEメールは、来季のナ・リーグは「指名打者＝DHなし」を予告するものだったが、「登録選手数の指示すらない」。

MLBは、「来季4月開幕」としたが、死者30万人に迫る疫病の勢いに、細部については様子見だ。しびれを切らせたスポーツ・イラストレーテッド誌が自社の8人の野球記者に〝コロナ・シーズン規則〟についてアンケートした。ナ・リーグは「DH不採用」で決定とし、「延長に入ったらタイブレーク方式を採用し走者二塁から始める」は6人が存続に賛成した。

理由は、「興奮する。戦術的幅も広がりファンも喜ぶはず。改良すべきは、10回に打線を組み直し、走者は9番打者とする。両チーム共に最強の打線で勝負を決められる。ただし、レギュラーシーズン試合に限定。ポストシーズンでは採用しない」。

プレーオフ出場を10球団から16球団にした「拡大プレーオフ」には、8人全員が理解を示したが、「16球団は多すぎてレギュラーシーズンの価値を下げる。勝率5割（81勝）程度で出場可能なら強化に手を抜く球団が必ず出る。増やしても12球団まで」。

いずれも常識的な〝回答〟でファンも納得だろう。しかし、この程度のファンへの広報サービスもできないMLBとは、コロナ・シーズンで迷走したショックはそれほど大きかったのか？（野次馬）